

# 2005年 卒業研究要旨

## 大学生のライフデザインについての研究

鈴木 麻里子

この卒業論文は、現在の労働市場や社会状況をふまえた上で、ライフデザインについて論じたものである。果たして、人々は主体的に自分の生き方を考え、設計し、達成しようとライフデザインをしているのだろうか。これらのことを、就職に直面し、人生設計について考えたと思われる学生に調査をし、ライフデザインの状況を検証する。

第1章では、ライフデザインとはどのようなことなのかを明らかにする。ライフデザインをすることにより、自分の価値観を確認することができる。さらに、自分の人生で起きる可能性のあることに対し、事前に準備しておくことが可能になる。そして、自分らしいキャリアデザインも可能となる。しかし、現在の若者の中には、今がよければいいという考えをもっており、ライフデザインをしていない人たちもいると考えられる。

第2章では、労働市場に焦点をあてる。正規雇用者が減少し、正規雇用者の労働時間や仕事内容などの労働環境は厳しくなっている。しかし、非正規雇用者と比べ、正規雇用者の満足感は高くなっている。女性労働者は、出産後に一時仕事を離れるという状況が続いているが、職業継続の道も広くなりつつある。大学新卒者の意識は、就職や進学に意欲をもった学生と、もつことのできない学生の二極化が進んでいる。そして、学校にも通っていない、職業訓練も受けていない若者であるニートが増加している。原因としては、雇用調整で新規採用を減らす労働市場、個性化・自由化を進めた教育の思わざる結果、家庭や地域で他者と交流する機会が減少したことなどが考えられる。

第3章では、家族の変化に焦点をあてる。最近では結婚を選択肢のひとつととらえ、理想の相手がみつかるまでは結婚しないという考えが広まってきた。その結果、晩婚化、そして未婚化が進んでいる。そして同時に、親と一緒に住み、経済的に親に依存するパラサイトシングルが増えてきている。少子化も進んでいるが、これは晩婚化や未婚化の影響もあるが、理想の子ども数を現実にできない費用と労力のコストの高さが影響していると考えられる。

第4章では、筆者が行った学生へのインタビューをもとに、大学生のライフデザインの状況について考察する。これまでの生活環境、卒業後の進路、働くことに対する考え、結婚や子どもに対する考えなどについて聞き取り調査をし、自分なりの価値観を持っているか、生活設計はできているかなど、ライフデザインの状況を考察する。その結果、価値観については、周囲から言われたこと、特に親から言われたことにただ従うのではなく、自分なりの考えをもって行動しているということがわかった。生活設計については、さまざまな可能性を考えた上で行動していこうとしている人がいる一方、あまり考えていない人がいることもわかった。それは、卒業後の進路をどの程度具体的に考えているか、どの程

度行動に移しているかで判断することができるだろう。多くの人は正規雇用者になることを選択している。これは、静岡大学の学生が、生活設計しやすい働き方を選んでいるということができる。実際に、結婚や子どもについて考え、プランをもっている人もみられた。しかし、目前のことだけで、これから先のことはあまり考えていないという、生活設計ができていないと思われる人もいた。

これから先、どのように生きていくのか、自分のことでもよくわからない。さらに、社会の状況がどうなるのかもわからない。しかし、自分が納得できる生き方をするためには、自分の価値観をはっきりさせ、それにあつた生活設計をするというライフデザインの考え方はきわめて有効であろう。ライフデザインとは、まわりに流されることなく、自分の人生を主体的に生きるためには必要なことだと言えるのではないだろうか。